

(別紙 7)

山形県における危険鳥獣出没時の体制構築に係る計画/評価報告
(出没時の体制構築事業) ①

1 現状の危険鳥獣（イノシシ、クマ類）の市街地等への出没時の対応体制及び課題等

現在、クマの市街地等への出没の際、市町村及び県警が連携して対応しているが、必要に応じて警察職員がクマとの最前線に立ち、市職員や猟友会員の安全を確保し対応にあたっている。
しかしながら、対応にあたる警察職員においては、クマ用の装備がないため危険と隣り合わせでの対応となっている。

2 危険鳥獣の出没時の体制構築に係る具体的な内容等

実施時期	令和 7 年 11 月～令和 8 年 3 月
場所	県内全域
目的	警察職員の安全確保、人身被害の防止、緊急銃猟の適切な実施
参加者・関係者	県警察職員
内容	県警察職員用の装備品の購入
方法	備品購入
評価方法	緊急銃猟に対応した装備品を配備した警察署の割合
事業費	11,088,000 円
備考	

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注 2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施内容の評価

- ・県内全ての警察署（14 署）に装備品を配備した。
- ・実施時期において、本装備品を使用する機会はなかった。
- ・緊急銃猟実施時、警察は、現場周辺の安全確保措置として、現場周辺の交通規制を実施するほか、「銃猟をするハンター」や「緊急銃猟の委託をする自治体職員」と行動する場面が想定されるところ、本装備品を着装することにより、現場対応する警察官の受傷事故防止が図られることが期待される。
- ・現在は、本装備を市街地で出没したクマ事案に使用の上、有効活用している。

注 1：事業が適切に実施されたか記載すること。

注2：事業の実施により、出没時の対応の流れや関係者の役割分担の明確化、協力関係の構築等が進んだか評価し記載すること。

注3：注1～2による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

--

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。